

A-2 グループ研究のまとめ

1 研究の成果

本グループでは、効果的な少人数指導の在り方を、個別化・個性化への対応、児童生徒の表現力の高まりについて、次のような手立てを取って検証を行った。

- ① 教科の特性や児童生徒の実態に合った形態での少人数指導
- ② 学習活動を活発化し、多様な表現方法を習得させるための小グループへの細分化

なお、下記の成果①、②は上記の手立て①、②に対応する。

(1) グループ全体

- ① 児童生徒の発達段階や単元の特性、学習内容に応じて、習熟度別や等質クラスによる少人数指導を行った。どちらの指導形態でも、個に応じた問題や学習方法、ワークシートなどを提示することが可能になり、基礎学力の向上につながった。
- ② 少人数を更に小グループに分けたことで、児童生徒の活動状況を把握しやすくなり、よりきめ細やかな指導ができた。また、学習集団を更に小グループに分けたことで表現力を高めるための活動を多く取り入れることができた。その中で、表現力の高まりを見ることができた。

(2) 小学校算数科（低学年）

- ① 2年生の発達段階を考慮して等質クラスでの少人数指導を行った。全員参加の考えを高めていく練り合いの場を設定したことで、小グループの交流に見方や考え方を生かすことができた。
- ② 全体での練り合い、小グループでの交流と発表の機会を保障したことで、表現することへの関心・意欲が高まり、図、式、言葉を使って分かりやすく表現しようとする児童が増えてきた。

(3) 小学校算数科（高学年）

- ① 発展、標準、補充の3コースの中から自己選択によって学習を進めるコース別学習を行った。学力差に応じた内容に取り組みさせたことで、多くの児童に自力解決をさせることができた。
- ② 自力解決に取り組んだ問題ごとに小グループに分け、解決方法について話し合わせたことで、考え方は同じでも様々な表現方法があることに気付かせ、多様な表現ができるようになった。

(4) 中学校英語科

- ① 単元のまとめの時間に、到達度によってクラスを再編成した。その基礎コースにおいて、完全習得を目指し、個に応じた指導を行った結果、語彙や語順などの基礎学力が身に付いてきた。
- ② 個に応じた学習スタイル別の小グループに分け、暗唱・暗写やタスク活動に取り組んだことで、与えられた場面で習得したものを使用することができるようになってきた。

(5) 中学校数学科

- ① 単元の特性や学習内容に応じた様々な形態で指導したことにより、基礎的・基本的な内容の習熟が図られるとともに、興味・関心を持ち、自分で解決しようとする意欲が高まった。
- ② 小グループにおいて、意図的に話し合い活動の場を設定し、互いの情報交換を促した結果、自分の考えを述べたり、他の意見を参考に、自分の考えを修正したりすることができるようになった。

2 今後の課題

- ① 個別化、個性化に対応していくための、習熟度別、等質以外のクラス分けの研究
- ② 有効な小グループ活動になるような1単位時間内での位置付けと時間配分